

前ページからの続き

7) Clindamycin は嫌気性菌に効力を持つことから高齢者の（ 嚥下 ）性（ 肺 ）炎に用いられる。また、グラム（ 陽性菌 ）にも有効である。Clindamycin は（ 蛋白質 ）合成阻害剤であり、劇症型 A 群レンサ球菌感染症で用いられる理由は、菌の（ 外毒素 ）産生の抑制が期待されるからである。

D) 次の項目に関連する下痢原性大腸菌を右の欄より選び、番号で答えよ。ただし、腸管付着性大腸菌は腸管病原性大腸菌に含まれることとする。

Attaching and effacing adherence	(2)	(4)
旅行者下痢	(3)	1) Enteroinvasive E. coli
粘血便	(1)	2) Enteropathogenic E. coli
鮮血便	(4)	3) Enterotoxigenic E. coli
米のとぎ汁様下痢	(3)	4) Enterohemorrhagic E. coli
小児の二週間以上にわたる持続性下痢	(2)	
易熱性毒素はコレラ毒素と 80 % の相同性を持つ	(3)	
溶血性尿毒症症候群	(4)	
赤痢様症状	(1)	

E) 赤痢菌とチフス菌とコレラ菌について関連することには○を、関連しないことにはXを記せ。

	赤痢菌 Shigella	チフス菌	コレラ菌
3 類感染症	(○)	(○)	(○)
入院勧告できる	(×)	(×)	(×)
日本に常在しない	(○)	(○)	(○)
炎症の場は小腸	(×)	(○)	(○)
毒素はリボソームの adenine を切り出す	(○)	(×)	(×)
毒素により細胞内 cAMP 上昇	(×)	(×)	(○)
粘血便	(○)	(×)	(×)
敗血症	(×)	(○)	(×)
慢性保菌者	(×)	(○)	(×)
糞口感染	(○)	(○)	(○)
100 個の菌で感染成立	(◎)	(×)	(×)